

《2》団塊の世代に贈る言葉——退職者50人インタビューから

執筆

編集部

2007年問題は、さまざまな角度から論じられていますが、退職後をどう生きるかの問題でもあります。すでに退職した50人の方に、現在行っていること、退職前に考えたこと、退職する方へのメッセージ等を伺いました。そこには50人50通りのプロフィールアフターがありました。退職者から、団塊の世代に贈る言葉をお届けします。なお、50人の内訳は、横浜市役所OB35人、市役所以外OB15人。再就職40人、年金生活5人、早期退職13人でした（注1）。

まず、一人の退職者の生活を紹介します。

現在の職場は2か所目です。今2つの会社に籍を置いています。1社は、週3日勤務で、現役時代の経験を生かして顧問の仕事をしています。もう1社は資格を生かせる所で、不定期の勤務です。週のうち1日は、3、4人で

庭木の手入れを行っていません。高齢者宅が増え、生垣や庭木の手入れができない人が増えたので、需要は結構多く、1年のうち半分は予定で埋まってしまう。仕事が終わると感謝され、これが喜びにもなります。日曜日は、庭木の手入れの枯葉などを堆肥に利用して、シルバー6人で300坪の畑を借りて農業を行っています。

しかし、仕事をして収入を得ていても、これでいいのかと、もんもんとして物足りなさを感じていました。そんな時、海外旅行をして、どうしてこんな景観ができたのだろうと思ったことや、大学へいけば測量の資格を取れることを知り、地理学科の通信生になりました。若い人とスクーリングや、レポート作成、試験を通して、知らないことを学び始めたら充実感や達成感がでてきました。大学を出ても、これからの生活に直接役

立つわけではないけれど、学ぶ充実感が素晴らしいのです。

この方は、多くの方が退職後に会おうことを一人で体験しています。他の方はどうでしょうか。

1 働く

退職後、50人中45人が働き続けました。「精神面、経済面、健康面からも働いたほうがよい。仕事も社会参加の一つの方法」というのが多くの理由でした。中には「退職後は、健康維持もありますが、家庭平和のため、妻とのかわりが重要なので、出かけたほうがよい。世の中変わったが、中でも夫婦が変わりました。それを男が分かっている。夫婦が仲良くするためにも、お互いが憎しみ合わないために働いています。」「母の介護や子どもの教育があり、自分のやりたいことに集

中できない現実があります。」

「退職し、3か月ぶらぶらしていました。地域は会社とは別世界で、話し相手がなく、体力が落ちていくのが分かりました。コミュニティがほしくて再就職しました。会社にいれば安泰です、命令で仕事をしていたらいい」という人もいました。

また、年金制度の変更も働き方に影響します。団塊の世代が年金を満額受け取るのは、64歳か65歳になります。そのため、経済的な理由から働くことが、大きな比重を占めてきています。

2 フルタイムから短時間勤務へ

働き続けた45人のうち、再就職した方が40人います。そのうち29人が、フルタイムで働き続けました。

（注1）平成17年度横浜市職員の退職の状況
 定年退職640人。定年前早期退職・勲奨退職273人。定年前早期退職とは、一定の年齢又は勤続年数以上の者に希望を募り、それに応じて定年前に早期退職した者です。（平成17年度横浜市人事行政の運営等の状況について）

①再就職して思うこと

再就職を選んだ時に考えたことをあげてもらいました。「ボケないようにしたい、収入も得たい、ボランティアもしたいので、70歳位までは働きたいと思いました。年金だけではなく、10万円位は稼ぎたいですから。」「家にいると朝起きない、出ていけない、庭の草取り、テレビ・読書漬け、酒・タバコの生活になる例をよく聞くので、再就職してメリハリある生活をしたいい、体調管理ができればよいと考えました。」「現役時代の延長で働ける制度があるなら、活用したほうがよい。自分で何かしようと思っても、収入を得るのは大変です。」「退職前に、再就職の意向調査があります。給料は半分以上になりませんが、年金の満額支給までは、何でもやりまの気持ちで臨みました。」「自分では開拓できなかつたので、職場の制度にのって再就職しました。」

退職して別の職場で働いている方の体験。「介護関係の会社は、従業員の4分の1が常に替わるめまぐるしい職場です。ヘルパー、看護師、ケアマネージャー等の人材確保が大変です。働きながら、介護を巡る家族、業界、自治体、

国の動きが日々実感でき、保健、福祉、家族等について勉強を欠かせない。」「循環型社会を目指し、地域・企業から集めた紙や布類を、中国を中心に東南アジアに輸出している。市を退職後2か所目の就職先で、自分で選択した1か所目は、高齢者を対象に、働く、生きがいが、健康、職業生活をテーマに、講座や仕事紹介などができ、自分らしい人生、充実した人生の棚卸しを自ら体験でき、自分の生活設計にも有益でした。再就職は、一般的には年金の満額支給までという経済的観点で考えている人が多いので、継続雇用に近い形だと思っっている」など、新しい体験を積んでいます。この場合は、転職といってもよいでしょう。

管理職で再就職した場合に感じることには、「拘束ストレスはありますが、自分で行動計画を作り、自分で行います。他の職場で働き、今までと違う世界が見えて社会的に幅が広くなりました。」「時間的にも気分的にも余裕があると思っっていました。事業の赤字を背負い気分的余裕はありませんでした。社員の生活を安定させるためにも努力をして、黒字にできました。しかし、経営努力をしても、経費

節減を求められ続け、辞め、現在の職場へ。時間的に縛られ、収入面は優雅ではないですが、気分的に楽になりました。」「難しかったのは、お客さんへのお礼とパソコン習得でした。今までの感覚が抜けず、「有難うございます」が言えず苦労しました。パソコンも息子に教えてもらい必死に覚え、事務処理になれました。これからは、管理職もパソコンを身につけなければだめです」等でした。管理職も、努力が求められます(注2)。

②短時間勤務へ

再就職40人のうち11人が最初から短時間勤務を、また1度フルタイムを経験した29人のうち10人が短時間勤務に切り替えています。収入も減りますが、収入には代えられないものがあります。

最初から短時間勤務の方は、「会社が退職後の仕事を留意してくれたので、週2、3回働いています。60歳定年といっても、何等かの形で働いて、65歳が定年と思います。無理をして違うことをしなくてもいいと思います。」「村役場に週3回勤務していています。現役時代に携わった、間伐事業を通じた村との交流や、その後のボランティア間

伐隊での付き合いがきっかけで、役場から組織再編の話があり、非常勤職員として再就職のお誘いがありました。もともとフルタイムは考えていなかったのと、横浜市での経験が役に立てれば、と思っ決断しました。週の残りの日は、横浜でのNPO活動などに充てています。」かなり割りきりがある方たちです。

継続雇用で働く場合は、気持ちの切り替え等が、あげられています。「横浜市の再雇用1期生(注3)です。新しい職場に行くつもりで、虚しい職場に、経験にこだわり、自分流で仕事を行うと、うまくいきません。ただ反復事務作業で張り合いがない。経験やノウハウが生かせません。」「他の社会では働けないので、再任用を選びました。仕事は限定されているので、お客さんにソフトに親切にでき、精神衛生的にもいいし、気分も楽になりました。」気分が楽になった反面、物足りなさも感じるようです。

フルタイムから短時間勤務に切り替えた方は、「退職後、4年間は週5日勤務で働いていました。自分らしく生きたい、自分の時間を持ちたいと考え、週2回勤務にしました。現役時代は、機構や組織

(注2) 平成17年度横浜市定年退職者(課長級以上)の再就職状況

外郭団体34人、民間企業7人、その他56人、合計97人

「定年退職者(課長級以上)の再就職状況」とは、外郭団体等からの要請により、求められている人材にふさわしい定年退職者を紹介した場合や再就職した定年退職者から再就職先について報告があった場合に本市が把握している再就職の状況です。

1 外郭団体とは、①地方自治法第221条第3項及び地方自治法施行令第152条に定める法人及び設立の経緯や本市施策との関連から議会に報告している団体、②本市出資率25%以上の法人、③出資法人のうち市が主たる出資者で、主要な役員に本市関係者が就任している、または財政援助を行っている団体、④非出資法人のうち市の事務事業と密接な関係を有し、市長が指定する団体です。

2 民間企業とは、外郭団体に該当しない会社法に基づく法人等です。

3 その他には、2、3に該当しない財団法人、区民利用施設協会等が含まれます。

(平成17年度横浜市人事行政の運営等の状況について)

に携わることが多かったの
で、その経験を生かして、今
の勤務先ではNPOを設立に
際して、地区センターの指定
管理者に挑戦しています。」

「働くのを断りに行きました
が、週何回来れるかと聞かれ
4回ならと言ったため、今の
社会福祉法人で働くことにな
りました。現役時代に比べて、
プレッシャーが少なくいい
ですが、管理職として実務か
ら離れていたのでは不安はあり
ました。仕事で比重を占めて
いるのが、人の採用と経営で
す。職員採用は、4月が中心
ですが、退職者も多く、中途
採用も行います」等、今まで
の働き方とは違う選択をして
います。

臨時やアルバイトの方は、
「在職した学校の校長から、
教員が病気で休むたびに、臨
時とか非常勤で来てくれと頼
まれて働きますが、精神的に
はとても楽です。」退職後、
引継ぎに2か月ほど通いまし
たが、気持ちは楽でした。そ
の後外出しませんでした。が、
事務職員が病気休暇の学校か
ら依頼があり、バイトで働い
ています。「市の施設の面接
を受けたら、地区センターコ
ミュニティスタッフを紹介さ
れました。5週間のうち2週
間、午後4時間働いています。

退職後のほうが、生活費がか
かります」等、生活スタイル
が変化しています。

3 起業する

最初から自営の方、再就職
後自営の方、資格を生かして
いる方を含めて11人います。

① 店を出す、事業を始める・ 継ぐ

そば屋を始めた方。「在職
中から、二度とない人生だか
ら今までと違う仕事をした
い。人生80年代をどう生きる
かを考えた時、何よりも健康
が第一と考えました。退職前
に手打ちそばを体験し、全身
を使う、定年がない、客との
コミュニケーションができ、
家に閉じこもることなく、社
会との接点を持つことができ
るということで、そば屋を始
めました。

そば教室に通い、家の近く
で店を探し、退職の年の12月
に開店しました。そば店経営
のノウハウはなくても「うま
いそばなら、必ず客が来る」
という話を信じてやっています
が、未だ納得できるそばが
できず、毎日が真剣勝負で緊
張感があります。ただ、若い
時からの仕事ではないので、
店の休みは日曜日と月曜、そ

して祝日。またゴールデンウ
ークや夏休み、年末年始は
長期休業と、他のそば屋とは
一寸変わっていますが、朝は
8時30分から夜の9時頃まで
と仕事時間は厳しいが、とに
かくうまいそばを作りたいと
いろんな面にこだわってい
たいと思っています。」

翻訳の方。「40歳位から、
自由業に憧れ、英語が好きだ
ったので翻訳学校に週1回夜
4年間通いました。50歳位に
なった時、横浜に翻訳学校が
できたので、3年間通いまし
た。退職前に、翻訳会社のト
ライアルを受け登録されまし
た。退職後は、会社から仕事
の依頼があり、国連の報告書
が多いが、会社関係の人事管
理など、運営に関するることな
どあり結構面白い。」

自分の思いや経験を仕事に
した方。「創業当時は元気の
よい会社も、20年近くたつと
守りに入ります。これからは、
冒険する気持ちを持ち続け、
精神が高揚することを、1人
で自由にやり続けたい。マー
ケティングやコンサルティン
グのノウハウを生かして、経
済合理性だけに重点を置くの
ではなく、人が注目しないが
よい企業を表に出したい、埋
もれた価値ある商品をヒット
させたいと思います。手始め

に、和菓子づくりから30億円を
かけて土造りから始めた会
社、カリスマを育てたベンチ
ャーなど、いくつかの会社・
商品を紹介する本を出版しま
す。常に気持ちを高揚させて
くれる仕事を通じて社会と繋
がっていたい。」「学校用務員
40余年の経験を生かし、塗装、
土建、片付け・清掃、蛇口の
修理、補修、庭木の剪定など
の仕事をしています。用務員
当初は6時30分に出勤し、宿
直の先生の朝食を作っていま
したが、勤務時間、賃金、業
務内容が徐々に固まりました
。廊下のワックス塗り、庭
木の手入れなどを工務店で学
び、夏休みに塗装協会や造園
協会に依頼して、用務員の研
修会を開き好評でした。退職
後、嘱託として働いた後、今
までの経験を生かした仕事の
依頼が結構きます。この収入
を、ボランティア活動に当て
ています。現役時代の経験を
生かし、仕事ができるシステ
ムを作りたい。」

事業を引き継いだ方。「ア
パート、駐車場経営をしてい
ます。父が亡くなり、高齢の
母を1人にしておけないの
で、退職して不動産管理を始
めました。アパートの家賃・
修繕等は、管理会社に委託し
ているので、殆ど家について

に、和菓子づくりから30億円を
かけて土造りから始めた会
社、カリスマを育てたベンチ
ャーなど、いくつかの会社・
商品を紹介する本を出版しま
す。常に気持ちを高揚させて
くれる仕事を通じて社会と繋
がっていたい。」「学校用務員
40余年の経験を生かし、塗装、
土建、片付け・清掃、蛇口の
修理、補修、庭木の剪定など
の仕事をしています。用務員
当初は6時30分に出勤し、宿
直の先生の朝食を作っていま
したが、勤務時間、賃金、業
務内容が徐々に固まりました
。廊下のワックス塗り、庭
木の手入れなどを工務店で学
び、夏休みに塗装協会や造園
協会に依頼して、用務員の研
修会を開き好評でした。退職
後、嘱託として働いた後、今
までの経験を生かした仕事の
依頼が結構きます。この収入
を、ボランティア活動に当て
ています。現役時代の経験を
生かし、仕事ができるシステ
ムを作りたい。」

〔注3〕 横浜市の再任用制度の概要
1 再任用の期限
現在の再任用制度は、平成14年度か
らスタートしています。再任用の任用
の期限は、65歳に達する日の属する年
度の末日までとなります。ただし、共
済年金の支給開始年齢の引き上げ期間
は、次のとおりです。

満額支給開始年齢	対象職員の生年月日	定年退職年度
平成13年度～15年度	61歳 S1642～1841	平成13年度・14年度
平成16年度～18年度	62歳 S1842～2041	平成15年度・16年度
平成19年度～21年度	63歳 S2042～2241	平成17年度・18年度
平成22年度～24年度	64歳 S2242～2441	平成19年度・20年度
平成25年度～	65歳 S2442～	平成21年度～

2 再任用の形態

任用形態は、フルタイム勤務と短時
間勤務の2つの形態があります。フル
タイム勤務については、定年前の職場
に引き続き勤務することを前提に、定
年前職員と同様に本格的な職務に従事
する。短時間勤務は、嘱託員等との勤
務の整合性を図るにより、職務の
円滑な執行体制を維持するため、週4
日勤務は週31時間、週5日勤務は31時
間15分となります。

3 再任用の対象者

- ① 定年退職者
 - ② 勤務延長後に退職した者
 - ③ 25年以上勤務して退職した者であ
るが、当該退職の日から起算して5年を
経過するまでの間にある者
 - ④ ③に該当する者として再任用された
ことがある者
- 平成17年度の横浜市の再任用職員
は、常勤・短時間合わせて854人です。
(平成17年度横浜市人事行政の運営等
の状況について)

み、自分で時間管理をするこ
とになります。現役時代のビ
ル管理をした経験とノウハウ
を生かし、仕事に役立ててい
ます。地元に戻り、農協の支
部長や同窓会の幹事を引き受
け、地域に溶け込めるようにな
りました。」

いずれも、再就職とは違う
緊張感、責任感が伝わります。

② 資格を取る

資格を再就職に生かす方、
市民活動に生かす方、起業す
る方などの選択をしています
(注4)。

資格を基に開業した方は、
「資格は取っただけでは使い
物にならない。スターライン
に立っただけで、厳しい訓練
が必要です」と説いています。

資格を再就職に生かしてい
る方は、「経済産業省所管の
独立行政法人に勤め、民間企
業出身の方と、連携による事
業化を支援する仕事をしてい
ます。医工連携など技術革新
に触れる日が続いています。
この仕事に役立っているの
が、中小企業診断士の資格と
横浜市の職員時代に長く中小
企業を支援した経験です。他
にISO環境マネジメントシ
ステム審査員、エコアクション
21審査人などの資格を持っ
ています。ISO環境マネジ

メントシステム審査員は市職
員時代に、ISO14001
研究会を立ち上げた時の講師
から『定年後はよい仕事だ』
と聞いたのがきっかけです。」「
保育士でしたが、子どもた
ちとの追いかけっこが大変に
なり、退職しました。母の介
護に役立つこと、人とのわか
わりを持つことを考えて、ヘ
ルパー、介護福祉士の資格を
とり、事業所で週3回働いて
います。介護福祉士になり、
体系的に勉強ができ、見る目
が育ったこと、資格を取るこ
とで自信が付き、質問を受け
ても何を見ればいいのか分か
ります。相手との相性もあり
ますが、自宅に伺い、心安ら
かに暮らせる手助けになれる
ので続けられます。」

資格を基に開業した方は、
「学校に通い、2回目の試験
で社会保険労務士に合格しま
した。社会保険労務士は、健
康保険、厚生年金などの労働
社会保険関係や人事・労務管
理の専門家で、労働、社会保
険や年金など生活設計の相談
に応じます。この仕事につき
労働社会保険関係をきちんと
していない会社がいかに多い
か、年金について皆が知らな
いかよく分かりました。市職
員時代とは、全く違った世界
の人との付き合いが始まり、

役所を見直すきっかけになり
ます。」「現役時代に、用地交
渉をしていたら、不動産鑑定
士の受験を勧められ、2次試
験に合格しました。退職後、
再就職で実務補修を積み、予
備校に通い、3次試験に合格
しました。不動産鑑定士は、
不動産の適正価格を決める専
門家ですが、地価公示などの
仕事を手始めに、様々な仕事
をしています。横浜市のOB
なので、市には10年は業者登
録をせず、他の仕事をしてき
ました。ここ10年は、銀行の
不良債権、外資の不動産の仕
事が目立ち、社会の動きと密
接に繋がっています。業界は、
日進月歩で、コンピューター
が使えないと業務ができず、
制度のプロとしてたえず研鑽
を積んでいます。」

教員の例。「早期退職をし
て、大学教授になりました。
市役所の経験は、今の研究に
とても役に立っています。テ
ーマに沿った専門性を高め、
研究をしたいという希望が
なえられました。最近は大
学内の業務や自治体からの依
頼が多くなっています。」「福
祉の経験を生かし、専門学校
で教えています。学校に行き、
若い人とのカルチャーショッ
クがありました。教員は施設
等の実務経験者が多く、実技

の先生が花形です。ただし、
すぐ退職する人が多かったの
ですが、介護、高齢者福祉等
の学科などカリキュラムや施
設実習を拡充して、長く勤め
る人が多くなりました。障が
い者、保育、在宅関係の役員
も引き受けています。」

講座に生かす方。「自宅の
造園を依頼しましたが、納得
できず、自分でやるしかない
と取り組んだのがきっかけで
す。造園技能士、造園施工管
理技師及び神奈川県職業訓練
指導員の資格を取得しまし
た。商売にはしたくなかった
ので、日本文化のルーツであ
る庭園の哲学を、講座を通じ
て伝えていきます。庭園には、
思想性と遊びがあり、共有し
一緒に考えていきます。」

退職後に資格を取る方もい
ますが、現役時代に取ること
を薦めています。資格は、取
る努力と、取得後の仕事、業
界のつながり、社会とかわ
りが増えてきます。

4 一地域活動・市民活動

「退職後は地域で」という
言葉をよく聞きますが、イン
タビューした方のうち、自治
会・町内会長、民生委員・児
童委員、体育指導委員、老人
クラブ役員といった従来の地

(注4)
資格は、中小企業診断士、環境カウ
ンセラー、ISO環境マネジメントシ
ステム審査員、エコアクション21審査人
幼稚園教諭、教諭、大学教授、専門学
校教員、保育士、司書、ヘルパー、看
護師、介護福祉士、鍼灸師、施工管理
士、技術士、測量士、造園技能士、造
園施工管理技師、職業訓練指導員、社
会保険労務士、不動産鑑定士、余暇生
活開発士、書道師範などがありました。

域活動を行っている方は5人だけでした。うち2人は年金生活の方でした。これに対して、市民活動、NPOや趣味を通じた活動に参加している方は、34人に及んでいます。

①地域活動・市民活動

子育て広場、保育園づくりに取り組んでいる方。「『子育ては親育て』の精神で、子育て中の母子を対象に、地区社会福祉協議会の協力も得て、月2回子育て広場を開催しています。また地域ケアプラザで、子育て相談サロンを月1回開催し、12年になります。また子どもの幸せを第一にする保育所をつくろうと話し合い、設立しました。現在は、親と一緒に喜び合えない、親が感情をありのまま出せない状態です。『甘えられる子は自立心がつき、他の人を愛する子になる』との29年間の経験を基礎に現在は、保育園運営に協力し、生き甲斐を感じています。」(注5)

ア講座に通い、図書館等でボランティアをしようと思っ
ています。磯子図書館には、「私の本づくり」グループというボランティア団体があります。」

リハビリの会を立ち上げた方。「脳出血後、区役所の中途障害者のリハビリ教室に1年間参加し、終了後20人ほどのリハビリの会を立ち上げました。定例会、自由に話し合う土曜サロン、パソコン教室、体操の日、バス旅行など、外出することを通じて、やれることを確認し、自信がつかってきます。モットーは、『ずっとこけていいんだ』。仕事ではない、いつまでになくしてはいけないものはない。日々何かができるのが、一番いい状態です。病気になる、付き合いたい、イキイキしたいと思っています。区社会福祉協議会の協力が活動ができます。」(注6)

り、国土交通省の振興策に応募したりしています。この仲間を母体に、地球環境を考えるNPOを立ち上げました。NPOは、健康のためにもよいので行っています。」

②趣味・余暇(注7)

絵画に取り組んでいる方。「地区センターの絵画教室に通い、半年くらいで何とか描けるようになりました。ハマ展、二科展にも入選することができました。絵画を通じて、職業も様々な新しい仲間もでき、話題が豊富になりました。絵画では、本音で勝負しています。もっと早く始めておけばよかった。自分にあつたものを行うのは、心身ともに健康になれる。例えば、小学生のとき、写生が楽しかった。」「現役時代に、絵画クラブに入会し、絵画教室にも通っていたら、区の美術展の役員を依頼され、絵画の会にも参画するようになりました。」

退職5年前から始めました。学生時代に経験していたのと、妻が20年以上行っていたので、一緒にできるからです。最近、福祉関係の取組も行い、200人規模のチャリティ・ダンス・パーティーも行っています。」

演劇に取り組んでいる方。「演劇を始めて、50年近くなりました。高校時代に照明を頼まれたのがきっかけでした。勤めてからも、中・高校生、大学生などを中心に、お寺の境内や地域の文化祭等で演劇を行ったところ評判になり、千葉まで公演に行ったこともあります。その後劇団を結成し、横浜アマチュア演劇連盟に加盟しました。飛鳥田市長の時代に、スカイ劇場で月1回公演ができるようになり、演劇は活発になりました。以後離合集散はありましたが、今の劇団になり20年以上たちます。演劇活動を振り返りますと、今が一番悪い状態です。プロも中小劇団では食べていけない、若者が参加しない、会場が取れない。また、参加してくる人も自己表現できない。内面から訴えるものがないようです。若者も親も教師も同じです。会社では、リストラや賃金カットの波にもま

(注5)

この方は、民間保育園で働いた後、保育士として市に入り、病院勤務となりました。当時としてはどこにもなかった慢性疾患の病児保育に携わりました。「小児病棟に必要なのは、医者と看護師だけではない」という考えから、保育士が要請されました。身体的自立仲間づくりを進め、週間カリキュラムの作成など、精力的に行った結果、病気の直りが早いと、看護師養成学校からも研修に見えました。入院している子どもたちからも「相談相手は、保母さん」と言われるようになり、退院した子どもたちからは、医者や保育士になった人もいます。幼児教育の相談員、子育てアドバイザーを経て、ケアプラザで働きました。

(注6)

この方は、退職2か月後、脳出血で倒れ、救急車で入院しました。前兆は、ふらふらする、いびきをかく、高血圧、電話をしようとしたができない等がありました。後で分かったことです。通院後も6か月は体重が減り続け、我生命ももうおしまいかと思ひ、涙しなうな生き方はなくなるといふ踏ん切りが付き、体重が増え、心構えができました。区役所のリハビリ教室に1年間参加、機能改善も進み、自分より症状の重い人にも出会いました。しばらくして、リハビリ教室の同窓会を開いたら、家に引きこもりでテレビばかり見ている人が多いのに、びびりし、何回かの話し合いを行った後、リハビリの会を立ち上げました。

した。退職したら、芝居に専念して余裕ある生活をとっていましたが、主夫として家事と演劇活動をしています。」

カメラに取り組んでいる方。「退職して、これから一生続けられるものを考えた時に、中学生時代に新聞配達してカメラを買ったことを思い出しました。再就職先で、写真の撮り方教室を開催しているうちに、展覧会に応募するようにになり、全日本写真連盟などの会員になり、この方面でも忙しくなっています。地域ケアプラザでお年寄りの写真を撮り、施設に展示して喜ばれています。」

能面づくりに取り組んでいる方。「指を動かすのは、ボケの予防にもなると、木彫りを始めたのがきっかけです。木彫りの会に、能面づくりをしている人がいて、始めました。県内に80人の会員がいて、朝日カルチャーセンターの講座では、助手で参加しました。世阿弥に始まり、江戸時代に台本に合わせて作ったものもあり、200余面が元になります。書道を行っている妻との2人展も開催しました。」

趣味について「現役時に始めることです。ただし、始めるのは簡単ですが続けるのは大変です」という言葉が印象

的でした。

5 一学ぶ

退職後、大学・専門学校に通った方は5人、現役時代に通学した方を加えると8人になります(注8)。現役時代の仕事を整理している方、関心・興味があったことに取り組んでいる方などでした。もちろん、大学・専門学校に通うだけが学びではありません。自分で学んでいる人はたくさんいます。

① 大学で学ぶ

市民自治を学ぶ。「大学院で市民参加、自治会等のかかわりをテーマに学んでいます。現役時代は、目の前の課題に追われ、走り続けていたことから、充電期間がほしいと思います、大学に入りました。テーマは、自分が、現役時代に携わってきたことを整理してみたいと思い選択しましたが、改めて勉強することにより、見えてくるものがたくさんあることに気づきました。なお、月曜から金曜日まで毎日学校に通い、土曜日と日曜日は農業と、規則正しい生活を維持するよう努めています。」

福祉課題を整理する。「今まで仕事を通して行ってきた

ことを整理したいと思い、大学院を選びました。福祉事務所働きながら、法律が障がい者、ねたきり高齢者等対象者別になつていて、横に繋ぐ面は弱いと感じていました。縦割りになっているものを、横に繋ぐ、総合化はできないものか、人を対象にした法制度はできないものか、と考えるようになりました。福祉事務所で、福祉5法に基づき地区担当制を敷いていましたが、「こういうのがあると便利よね」と、マップ作りに取り組みました。このマップ作りは、デイサービス事業への展開の第一歩になり、横の繋がりが広がりました。さらに、結果を発表する機会に恵まれました。もう一度確認することができました。それ以後、介護保険や福祉保健センターにもかわりましたが、目指すものは変わりませんでした。」

語学に取り組む。「子どもが成長し見通しが立ち、ゆとりができたなら辞めたいと思っていたので、ローンの返済も終わり、51歳で退職しました。1年目は想定外の夫の病気があり、介護が入りましたが、好きなことをしたかったので、2年目に語学(英語、スペイン語)を学ぶため短期大学に社会人入学しました。長

年フラメンコ(踊り)を習っているのですが、スペイン語には関心がありました。授業は語学の他、経済学、英・米の歴史、哲学など興味深いものばかりで楽しかったのですが、テストの時は勉強(覚えること)が大変でした。卒業後、スペインに短期留学し、スペイン語をヨーロッパ各国の人々と交流しながら学び、またフラメンコのレッスンでは、感情表現の大切さを学ぶなど大いに刺激を受けました。」

② 地域で共に学ぶ

万葉集を通して人間回復を目指す。「戦後、価値観・歴史観が変わり、日本の歴史・伝統文化を否定していましたが、奈良・飛鳥に行き、日本文化に触れびつくりして、歴史を歩き、万葉集にいき着きました。本物に触れ、生きることの大切さを感じ、仲間と関東の万葉を歩いています。万葉集を学ぶことを通じて、人間回復、自己実現に繋がります。講座や生涯学習による万葉集を通じて、市民が地域に目を向けるきっかけになり、地域が自信を持ち、地域が自立していかなければ世の中よくならない。余暇を見直し、余暇生活開発士になったこと、仕事で生涯学習に携わ

この方以外にも、多くの方が病に罹り、闘病生活を送った経験がありました。「50代半ばで脳梗塞、心筋梗塞と2度病気を患って、人生の見方が変わりました。あくせくして命を縮めることではない、自分でやりたいことを選んでゆつくり生きていこうと思うようになりました。」「胃潰瘍の治療が終わった時に、医者から他も検査して見ますか」といわれ、行ったところ肺がんが見つかりました。丁度、長年続けてきた消防の仕事が、きついと思い始め、退職した頃と一致していました。手術で37針縫い、肺活量は2800まで落ちました。2か月に1回程度通院していますが、薬が高く、1回に5万円くらいかかります。先ず健康でないと駄目だね。」「50歳を過ぎてから、股関節の手術をしました。30代から痛みはあり、体重を減らさない、足の筋肉をつけなさいと忠告もありましたが、忙しさにまけてはっておきました。もう我慢ができなくなり、左方の手術をしました。満員電車だめ、バスも駄目で通勤は大変でしたが、右足に負担がかかるようになり、結局3年後、右足も手術になりました。2回とも病氣休暇を使って助かりました。杖も両方の手術後やっ和外れました。ただし、脳出血等で片麻痺になると筋肉が弱るので気をつけています。これ以後、せつちから早足だった性格が、ゆつくりタイプに変化しました。」

(注7) 趣味・余暇としては、この他、庭木、旅行、楽器、陶芸、ゴルフ、テニス、太極拳、登山、綱引、菜園等があげられました。

(注8) 現役時代に大学院に通った方の話。「新鮮な体験でした。こんな世界があるのかという感じでした。生きていく上で、気持ちの上で張りになっていきます。まだまだですが、気持ちは繋がっています。」

ったことも影響しています。

地域からみた金融、地域通貨。「退職前は、具体的イメージはありませんでした。自分が、会社人間でしたので、自分の個性を生かした、自分らしい生き方ができると期待してました。2年間を準備段階と位置づけて、一定の方向を見つけてようと考えました。しかし、会社以外にネットワークもなく、自分の経験やノウハウを生かそうとしたが、方向転換しました。会社時代や学生時代の友人と勉強会を立ち上げました。地域の側に立った金融業、地域通貨について、月1回発表しあっています。」

6—社会と繋がる退職後の人生

インタビュを通じて、働く、地域活動・市民活動、学ぶといった従来の枠には収まらない生き方に出会いました。この中から自分の生き方として選んだ道、自分の興味・関心を、社会と繋げた生き方をいくつか紹介します。

特許を生かす。「都市のライフラインの仕事約35年から経験し、電気、ガス、水道、下水、電話等、人々の生活に欠かせない設備が、平成7年阪神・淡路大震災において、壊滅的被害を受けました。災害に強く、メンテナンスに優れている共同溝について特許を取得し、新会社と協会を設立して新しいまちづくりの生活道路と共同溝整備の重要性をPRしています。松戸にある国土交通省・新技術展示場に平成16年から展示させて頂いています。また、自分の直腸癌による人工肛門の体験を通じて、皮膚炎症の解消と経済的新製品の開発を進め、人工肛門福祉補装具で幾つかの特許を取得し、ホームページ等で患者のQOL改善に取り組んでいます。」

ワーカーズ(注9)としての生き方。「私のワーカーズとしての収入は、小遣い程度ですが、働くのは、お金だけの問題ではありません。社会貢献して喜んでもらえるのは、金には代えられない。60歳では、どこかで働いても10万円台にしかありません。だったら働かない。これは、その人の生き方です。私は、妻から「エアコン修理の講習会があるけど、暇だったら行ってみない」と言われ、暇ではないけれど行ったのがきっかけでした。エアコン修理、襖の張替え、庭木の手入れ、美理容、リフォーム等をする「街の技術ワーカー」を作っています。また、退職後取っ

たヘルパーのワーカーズも行っていきます。時間はたっぷりあるので、有効活用しない手はないです。」

地域福祉にかかわる。「介護事業所で働きながら、地域や学校等にかかわっています。地域福祉に携わりたい、新しいスタートを60歳で切りたいと思い、56歳で退職しました。医療、福祉に役立つには、知識、資格が必要だと考え、医者、看護師は無理ですが、鍼灸は穴場だと思えました。3年間の専門学校通いは、若人と一緒に、まだまだできると実感しました。資格取得後、介護事業所の設立準備をしている方から依頼があり、かわりだしました。介護事業所に必要なヘルパー、福祉住環境コーディネーターの資格も取り、通院やリフォームの相談に乗ります。その後民生委員・児童委員の経験から、社会福祉士も取得し、障がい者施設、病院、母子寮などにもかかわっています。地域活動、福祉活動には現場を離れることなくずっとかかわりたいです。」

人権等の講演依頼が年数回ありますが、書籍代に消えます。現役時代は、差別・人権問題と向き合いました。差別はいけないと思っていました。自分のことは思っていました。しかし、差別を問われ、勉強をはじめ、生活の中に差別の根源がある、差別をするのも、されるのも自分のことだと気がつきました。仕事を通じて人権意識を磨かないと自分のものになつていけないことを、呼びかけ訴え続けてきました。学習や研修で市職員の人権意識が高まると、市民に優しい市政になります、優しくなれます、結局皆が幸せになります。ポランティアなども他人のためではなく、自分のために、生きがいとして社会参加しましょう。」

7—これから退職する人へのメッセージ

これから退職する人へ、たくさんのメッセージをいただきました。一部を紹介します。

① 生き方は自分で

「2007年問題は、一人ひとりはどう生きるか、老後をどう生きるかの問題、自分の問題です。生き方は自分で決めることです。自分流の社

(注9)
1 ワーカーズ・コレクティブとは今までにない働き方で、雇われるのではなく一人一人が出資し、経営し、営利を目的とせず、労働も担い、暮らしやすいまちにするため、市民による事業を行う「働く人たちの協同組合」です。
2 ワーカーズ・コレクティブの業種
①在宅福祉部門…家事介護グループ、食事サービスグループ、デイサービスグループ、移動サービスグループ、保育グループ、健康支援サービスグループ
②食部門…惣菜グループ、仕出しグループ、レストラングループ、パングループ
③情報文化部…情報グループ、文化グループ
④ショップ部門…環境・ショップグループ、リサイクルグループ
⑤委託業務部門…生活クラブ生協グループ、福祉クラブ生協グループ、施設管理委託グループ
3 ワーカーズ・コレクティブの数
全国で582団体、約1万7000人、事業高127億、神奈川は、220団体、6000人、内男性は4%で240人です。(全国…ワーカーズ・コレクティブ ネットワーク ジャパン。神奈川…神奈川ワーカーズ・コレクティブ連合会)

会とかかわり方を決めることとです。会社の関係で働くのか、自分で探すのか、趣味に生きるか、全部を自分で決めます。退職者向けに、培ったものや能力の生かし方やグループ作りの講座や資金援助があるといいです。起業にも繋がります。資金、場面、受皿づくりがポイントになります。「自分の棚卸しをすると、方向が見えます。仕事、趣味、夢、希望、家族、親、兄弟、友人・知人、家、蓄財など棚卸しを行い、整理すると方向付けが見えてきます。そこから退職後のイメージを作り、できるところから行動を起こせばいいのです。」「自分の自由になる、趣味や付き合いに使えるお金を確保したほうがいいです。月に5万円として年に60万円。10年なら600万円必要なので50歳から個人年金を積み立てています。」

②専門性をもって

「何かしたいのなら、10年前から考えないと間に合いません。現役時代に専門性を持つべきです。市や組織にとって、専門職が必要です。一つの仕事を3年やると専門家になれます。専門が2つあるとよいです。ゼネラルと併せ持ったら一番いいです。」

これからは、NPOをやる人も、コンサルに回る人もいるはずですので、自治体の経験・専門性が生かされる時代になります。「現役時代は、仕事に関心を持ち、テーマを持ち極めるつもりでやってほしい。テーマを持ち、時間、お金を使って主体的に学ぶことが大事です。そうすれば、自分を耕すことになり、もの

りがないから、市民に対しても配慮ができないのです。専門性を高め、早いだけ、効率性だけでない市民配慮のできる人の育成が大事です。」

③その他

「年金は月13万余円で、年金では生活できません。収入を得る方策を考えておかななくてはいいけません。60歳になると体力的にも厳しい人もいますので、体力に合わせて働くことです。ただ60歳まで働けたら御の字。中学卒業から准看護師として働き、定時制高校、高等看護学院に通い、25歳で横浜市の看護師になり60歳まで働き続けました。当初は労働条件が悪く、改善にも取り組みました。60歳過ぎても経験を生かして働きたいという人がいますが、何が残っているのでしょうか、働ける場があるだけでよい。」「他人のために役立つ人間になれば、自分も楽しい人生を送れる。人に喜んでもらえれば、自分もうれしい。それもこれも、自分が動くからかわりができますが、誠実さがないと信頼してくれない。『小さくとも誠の道を』他人の前にタイムツを立てる人は、我が足元明らかかなり。」「今まで社会に世話になったから、お返し

をする気持ちで、個人の利益を追求するだけでなく、社会に役立つことをやってほしい。趣味でも、社会とのつながりを大切に、社会に貢献してほしい。」「身だしなみをキチンとしよう。年齢をとるとジャージを着てうるうるしている人がいますがこれは駄目です。朝は起きて、外に出かける服装に着替えること。色気ももって、若い人の中に入りましょう。」「元気で生きていくために、毎日1回は外出すること。10人の人と話すこと。百字書くこと。千字読むこと。1万歩歩くことです。」

8 最後に

50人の退職者が、熱い思いを、団塊の世代に贈る言葉を語ってくれました。お忙しい中、平均2時間お話を伺いました。人生を真面目に、誠実に生きていこうとしている姿が印象に残りました。また多くの方が、自分の生き方と社会との繋がりを考えて生活していました。これから団塊の世代が、再就職へ、社会へ出て行こうとしています。静かな変化を予感させるインタビュでした。皆さん、本当に有難うございました。